

コムシティ再生計画

1 再生計画の策定

本市は、コムシティの活用について、幅広く意見を伺いながら、今年8月に、市としての再生計画（骨子案）を策定した。

この骨子案をもとに、市民意見募集などを通じて、幅広く市民の皆様の意見を伺うとともに、市議会議員や地元団体などとの意見交換を行いながら検討を重ね、今般、市としての再生計画を策定した。

2 再生の基本的な方向性

（1）黒崎地区の活性化におけるコムシティの再生

コムシティの再生は、黒崎地区の中心市街地活性化基本計画の主要事業であり、同計画の基本テーマである「クロスロード黒崎 人が集い、暮らし、交流する賑わいあふれる副都心」の実現に貢献する再生を目指す。

（2）再生の基本コンセプト

コムシティ再生のあり方検討会の最終報告などを踏まえ、「公共公益的施設を中心とした複合型施設」として再生することとし、その基本コンセプトは、市民全体のための施設に重点を置いた、『人づくり支援・広域行政サービス拠点』とする。

3 施設構成と入居施設

基本コンセプトに沿って、3つの機能（人づくり支援機能、広域行政サービス機能、生活利便機能）を担う施設で構成することとする。

（1）施設構成

3つの機能を各々担う施設として、次の施設を入居させる。

区 分	入居施設
人づくり支援機能	<p>子どもの館</p> <p>(仮称) 市民みらい創造プラザ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)八幡西生涯学習総合センター 新設 ・(仮称)ユースステーションくろさき 新設 ・市立美術館「市民ギャラリー」 新設 ・西部障害者福祉会館 ・市民活動サポートセンター ・国際交流ラウンジ（北九州国際交流協会） ・子ども総合センターくろさき少年支援室 ・若者ワークプラザ北九州・黒崎
広域行政サービス機能	<p>八幡西区役所</p> <p>西部市税事務所</p> <p>西部整備事務所</p> <p>第2夜間・休日急患センター 検討中</p> <p>ハローワーク 誘致協議中</p> <p>優良運転者免許更新センター 誘致協議中</p>
生活利便機能	飲食・サービス施設等

(2) 入居施設

人づくり支援機能

子どもから成人・高齢者に至るまで、また、年代や国籍・文化を問わず、街の最大の財産である“人”に着目し、本市の新たな“人づくり支援機能”として、コムシティを特徴づけ、広く市民に情報発信する施設。

子どもの館

多くの子育て家庭が、黒崎地区に来訪し、活動しやすい環境を整備するため、子どもの一時預かり室を整備する。

また、施設の整備・充実を行うとともに、子育てに関する相談事業や講座等の充実を図る。

(仮称) 市民みらい創造プラザ

現在の八幡西生涯学習センターや子どもの館の機能を拡充し、青少年から高齢者、障害者や外国人市民に至るまで、あらゆる人が集い、活動し、交流し、学ぶことができるよう、下記の4つの機能を柱とし、各種施設で構成する新しいタイプの市民施設とする。

【活動の支援】

NPO法人などの市民団体や個人の多様な活動を支援するとともに、市民の学習成果や活動成果を地域社会の発展に活かすしくみを整える。

《市民活動サポートセンター》

NPO法人を含む市民活動支援の拠点である同センターを、ムーブからコムシティに移転させ、活動スペースを拡張するとともに、NPO法人の認証受付やボランティア相談を含め、他機関とも連携した機能の充実を図る。

《市立美術館「市民ギャラリー」》・・・新設

市民の芸術活動や創作成果の発表の場として、市立美術館の本館、分館に加え、新たに「市民ギャラリー」を新設する。

ギャラリーの運営にあたっては、市民や民間団体の協力を得ながら、年間を通じて鑑賞できるような環境を整える。

【交流の促進】

青少年・成年や高齢者、障害者や外国人市民に至るまで、あらゆる人が集い、語らうことのできる場を提供する。

《国際交流ラウンジ》

国籍や文化などの異なる人々が集い、学び、活動できる「多文化共生」のまちづくりを進めるため、外国語の学習や会話、外国人向けの相談、交流などが行える、国際交流ラウンジを設置し、運営は、国際村交流センターにある（財）北九州国際交流協会が移転して行う。

《西部障害者福社会館》

点訳・朗読ボランティア等の育成を行っている点字図書館及びビデオライブラリーを併設し、視聴覚障害者への情報提供や、障害のある人向けの様々な講座を行い、サークル等の自主活動の場でもある当該施設を移転させ、利用者の増加やボランティア活動の拡大、障害のない人との交流の促進などにつなげ、障害のある人の社会参加を推進する。

【学びの充実】

現在の八幡西生涯学習センターを移転した上で、自主事業の企画を行う生涯学習総合センターとして拡充し、市民の学習ニーズに応える。

《(仮称)八幡西生涯学習総合センター》・・・新設

人材育成や情報発信、学習相談等の機能を充実させるとともに、(仮称)市民みらい創造プラザの各施設と連携しながら、魅力ある学習機会を調整・提供するため、(仮称)八幡西生涯学習総合センターを新設する。

【若者の成長応援】

若者の安全で安心な居場所を創出するとともに、就業などの困難を抱える若者に対し、必要に応じた支援を行う。

《(仮称)ユースステーションくろさき》・・・新設

中高生等の若者が、学習や体験、スポーツ・文化、仲間との交流等を通じ、豊かな人間性を養い、社会性を育てる場を整備する。

学び：社会人基礎講座、コミュニケーション能力開発、等

体験：職業訓練の前提となる体験、等

遊び：音楽、ダンスなどの楽しめる場の提供、等

《子ども総合センターくろさき少年支援室》

少年支援機能の充実や自立促進を図るため、現在、八幡西生涯学習センターに入居する同施設を移転させ、利用者の利便性向上を図る。

《若者ワークプラザ北九州・黒崎》

若者を対象とした求職・求人情報の提供などを行う同プラザをメイト黒崎から移転させ、ハローワークとの連携を強化し、若者の就業支援の充実を図る。

広域行政サービス機能

国県市の行政サービスの一体化等による、本市西部地域の住民サービス向上に資する施設。

八幡西区役所
西部市税事務所
西部整備事務所

広域からの来庁者にも配慮し、複数の区を管轄する西部市税事務所・西部整備事務所とともに、区役所を交通ターミナル機能を有するコムシティに移転させ、市民の利便性を高める。

第2 夜間・休日急患センター …… 検討中

現在、「本市西部地区の医療提供体制のあり方に関する検討会」で移転先として検討されており、本市西部地区の救急医療サービスの向上につながることから、同検討会の状況などを踏まえながら、コムシティへの移転・整備に関する市の方針を早急に決定する。

ハローワーク …… 誘致協議中

区役所とハローワークとの連携強化により、国の無料職業紹介や職業相談サービスと、市の福祉サービスなどを一体的に実施し、市民の利便性向上や、広い意味での“人づくり支援”につなげる。

現在、ハローワークについては、国に入居をはたらきかけており、早期確定を目指す。

優良運転者免許更新センター（ゴールド免許センター）…… 誘致協議中

本市西部地区や市域外を含む優良運転者の利便性向上を図るため、福岡県などに施設の新設をはたらきかける。

生活利便機能

駅前のにぎわいづくりや交通ターミナルの利便性向上につながる施設。飲食やサービス業を中心とした商業テナントを入居させることとし、民間事業者への一括賃貸により、テナントの誘致や管理運営を行う。

4 施設配置

施設配置については、

3階以下に、昼夜・土日を問わず利用でき、黒崎駅前のにぎわいづくりにつながる、人づくり支援施設や生活利便施設

4階以上に、市民の利便性向上につながる、区役所、ハローワークなどの広域行政サービス施設

を中心に配置する。

階層イメージ

階数	入居施設
7階	子どもの館 既存
6階	ハローワーク、西部整備事務所 等
5階	区役所（総務企画課等） 西部障害者福祉会館
4階	区役所（市民課等ワンストップ関係課） 西部市税事務所
3階	(仮称) 市民みらい創造プラザ [(仮称) 八幡西生涯学習総合センター 市立美術館「市民ギャラリー」 国際交流ラウンジ 等] 生活利便施設
2階	(仮称) 市民みらい創造プラザ [(仮称) 八幡西生涯学習総合センター 若者ワークプラザ北九州・黒崎 等] 生活利便施設
1階	
地下1階	(仮称) 市民みらい創造プラザ [(仮称) ユースステーションくろさき 等] 第2夜間・休日急患センター 検討中
低層棟 1～4階	生活利便施設

5 施設の改修計画

市民が利用しやすい施設となるよう、バリアフリー対策やLED照明などの省エネ・環境対策にも配慮し、次のような改修を行う。

(1) 本体改修

市民の利便性や、館内の回遊性や安全性などを考慮し、エレベーターの新設など必要な改修を行うとともに、高層棟東側を中心に可能な限り採光確保のため外壁への窓設置等の改修を行う。

(2) 駐車場

よりわかりやすく入庫できるよう、運転者や歩行者の安全性や、国道3号への渋滞などの影響を考慮しながら、折尾側からの進入路の改修や、小倉側からの進入路に関する案内標識等の充実などに取り組む。

なお、駐車場料金については、利用形態に応じた適切な料金体系となるよう検討する。

6 工事費

生活利便施設部分や誘致・検討中の施設を除く改修経費は、35億円程度を見込んでいる。

7 開業後の来館者見込

人づくり支援機能の中核施設である(仮称)市民みらい創造プラザや、区役所などの広域行政サービス施設の入居により、現在営業中の子どもの館を含め、年間200万人以上の来館を見込んでいる。

8 スケジュール

今後、速やかに改修に必要な設計にとりかかり、平成24年度の早い時期に改修工事に着手する。

平成25年3月の黒崎地区中心市街地活性化基本計画の期限を踏まえながら、できるだけ早期開業を目指す。